京城新報

人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久伸一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

株式賣買手續（四）

株式小僧

▲立會時間

一大阪株式取引所の市場は毎日本場後場の二回に立會を開始致候本場は午前九時三十分より後場は午後一時二十分より

但し休場は大祭日日曜日幷に毎月末當限納會日の後場及受渡日（當限受渡は毎月末日の前日同納會は受渡日の二日前等）に有之候

日の長短に據り發會時間の遲速あれども大凡三十分の差異なるべし而して各閉會の時間は賣買取組の多少に依り一定せず

▲寄附、廻り、大引

一毎日兩場とも一ッ株式毎に當月限中月限末月限と順次に立會賣買を爲し再び當、中、末限に戻りて立會を爲すこと初回同樣に有之其の初の出來直を寄附と稱し再回を二の廻りと稱し最終の出來直を大引と稱へ寄附より廻り迄及び廻りより大引の間に於ける賣買を接續賣買又は歩み共申候

▲注意

阪神電鐵株 額面五十圓

一月限 一二二、〇五　七〇　一〇　大引
二月限 一二二、五五　六〇　七〇　八〇　七〇　大引
三月限 一二三、〇〇　一〇　二〇　一〇　二〇
（寄附）歩ミ　同　同　同

相場表に寄附廻り大引の節には五錢の端數を記載あるも接續賣買に於ては五錢の端數を用ひず即ち上圖の如

市場の風勢を察すべきも時に逆賭して當月より中末月に至るに從ひて安値を顯はすが如きは確かに斯界の一變調たるを疑はず即ち之等日々の比較と三期の對照とに依りて市場の大勢を卜し而して時事問題の經濟界に影響あるべきものに留意參考せば蓋し商機を知るに於て庶幾すべしと被存候

袁世凱の起用説

新に外務部尚書に任せられたる鄒嘉來氏は健康不良にして劇務に堪ねず且つ又憲政籌備の事務益々多端なるより要路に在る某親王は袁世凱を起用して其任に當らしめんことを攝政王に勸めたり尚攝政王は曩に逝去せる鹿傳霖の後任に東三省總督錫良、東督の後任には江蘇巡撫程德全を陞任せん意向ありしも軍機處各大臣は東三省總督の地位重要にして容易に動かすべからざるを主張し其代りに又軍機大臣に袁世凱を起用せんことを奏薦する所あり攝政王の意亦大に動けりと傳ふ未だ當れるや否やを知らざるも袁起用説の又々官場の一談柄となれる丈けは事實也

かつたのだ。

俳句

△祖翁忌芳詠六十三章中乙逆列
花僊園犂雲宗匠撰

岩の根を水は流れて散る紅葉　半韓
掛茶屋の跡はかりなり散る紅葉　朝松
小流をせきとめに見散る紅葉哉　都天女
惜まるゝ色ぞはや散る紅葉哉　半韓
掛茶屋の跡の淋しや散る紅葉　朝松
溪川の水音絶る小春かな　一考
更閑て乳母か情や玉子酒　萩月
掃除した庭に散たる紅葉かな　鈍蝶
大殿の杖めし玉ふ小春かな　思遠
紅の池となりけり散紅葉　如眠
玄海も名のみなりけり小春風　如春子
玉子酒ならはと下戸も呑に飛　其月
日傘さす人も數ある小春かな　朝月
泡燒て人に進めぬ玉子酒　如眠
客は皆女はかりや玉子酒　都天女
風邪引て藥にしたり玉子酒　朝義
今日限り鎖す茶屋有散る紅葉　半韓
雜談に夜は更にけり玉子酒　悟竹
西窓を明放したる小春かな　萩月
川下る船にちり込む紅葉かな　其月
散る紅葉乘せて流るゝ筏かな　西都
谷川の流とめけり散紅葉　朝松
野に山に人の出て居る小春哉　其月
小春日や澄み切る空に鶴の聲　米水

文苑

會話

篠々庵

人間の職務を總つた、前世には貧困で浮世の浪に晒された二人の徒輩が癩にさはつて堪らないと云ふ面付で「幸福を授ける神」の前に立つた、そして二人共うつたへる樣に幸福の神に申上た 神樣、何故に貴殿樣は私共に幸福を下されませんでした、私共はつい一度として千圓萬圓の金を手にした事が有りませんでした、其れで彼の路傍の石塊のやうに暮して死んで參りました、私……恨みます。

山中鹿之助

第廿四回　西尾麟慶演

此の注進を聞きまして更科も案に相違して 更「不思議の事なり、兩人無事にて歸ると云ふは何か計略ある事ならん者ども用意に及べ」と吩咐ました此の窟は三方谷を帶びて、斜に道を登らねばなりません、春より夏へかけて村雨の爲に流る谷川が溢れて容易に此窟へ這入る事は出來ません、上より下を見下せば直ぐ目の下に二人が見へますが登つて來るには容易でありません、此方では種々段々……て參る、……占ります、頓て……又更科は白綾を疊で後ろ鉢卷、襷を掛て鉄の蛭卷したる薙刀を小脇に抱込み、右手には簑田五郎左手には數多小賊ども得物々々を携へて、充分に堅めたり

窟の口々には嚴重なる用意を致して居る處へ、馬場美濃守と名乘たる一人が頓て入口へ來り 馬「ヤア汝無禮の事を致さば後悔せん、兼て申し聞せし通り神妙に致せ」と大音に呼びました之を聞て更科 更「イザ甲州より來る馬場美濃これは御出迎ひ致さん」と薙刀……「アイヤ能く……

て聞せん、心を落付得物を收よ」と云はれ更科倩々見れば全く夫森之助で御座いますから、一同の手下にも劍を納めさせ、森之助を正座に直し、更科は夢ではないかと疑ふばかり、森之助座を占て 森「我信州より甲州に送られ馬場美濃守殿の屋敷に引取れてありたるが、誠に仁義の大將と云つべし、我命を取らず致して怨を捨て、跡部長坂……と企みしも、美濃……罪人あつたれ、斯して我……ふ處必……刑を……

ふ處なり、今日是へ來つたるこそ幸ひイザ尋常に勝負せョ」と大音に呼はつたり、此時遙か後ろの方に置てありました長持の中に聲ありて ○「馬場美濃守見參せん」と呼はる、更科不思議に思つて後ろを振り向けば、折りしも長持の蓋を開なき、現はれ出たるは、コハ开も如何に、遉ぬ如何に馬場と名乘りし者莞爾と笑を含み ○「如何に更科存生にて對面とは思はざりし、相木森之助是にあり」と云はれ此方は更科夢の如く只呆れて言葉も御座りません、森「某し命を助りし始終の物語を致し得たり、此度二人の者を召捕て、女が首領なりと云ふ事を聞き、殊更信州の者、聞きたれば、聊か心に掛る事ありとて斯は計ひたるなるぞ、然れば此の窟は早く引上げて大勢の手下も離散させョ、其方は一度馬場殿の屋敷へ伴はん、とあつてソコ／＼窟を燒て一同退散する事になりました、尚は簑田五郎も到底馬場美濃守を討つ事力及ばずと諦めて、越後國へ引揚げました、此時武田信玄に於ては諏訪賴繁の息女の腹より男子出生致し、是勝賴で御座ひますソコヂ長坂左衞門入道跡部大炊介を始めとして其外數多の家來を附て新府へ遣はしました、されば森之助を恐む事もありません、併しながら武田方に於て公然使ふと云ふ譯には參りません又森之助は二君に仕へるものでは御座ひませんから、矢張馬場美濃守の影武者となつて居ります、然るに現在の叔父が此の武田家に仕へて居りますが、未だ一度も面會ませず、互ひに疎音に打ち過して居りましたが、今は自分を仇と怨み居りました跡部長坂の二人も勝賴に從て新府に參つて、甲府には居りませんから叔父の家を尋ねやうと考へて居りました

▲陸[illegible]　陸軍の大更迭昨日發表され其重なるものは中將の待命三、豫備二、少將の豫備六、休職三、少將の新任十五にして大將の新任なし

▲海軍の進級發表　本日海軍進級を發表せらる
任海軍大將　海軍中將　片岡七郎
同　同　上村彥之丞
同　同　伊集院五郎
右の外中將二名、少將十一名新任せられ中將三名、少將二名待命仰付けらる

▲將官新任式の擧行　別項海軍將官の進級に就き本日宮中に於て新任補職の式を行はせられたり

▲陸軍將官の交迭　本日陸軍の大交迭發表されたるが其の重なるもの左の如し
第一旅團長陸軍少將　依田廣太郎
任陸軍中將
補第十一師團長　陸軍中將　依田廣太郎
補第十八師團長　野戰砲兵監　大迫尚道
第十一師團長陸軍中將　伊知地幸介
第十八師團長陸軍中將　木村有恒
東京砲兵工廠提理陸軍中將　西村精一
待命被仰付豫備に編入さる
東京灣要塞司令官陸軍中將　藤井茂太
免本職補野戰砲兵監
兵器本廠長陸軍少將　兵藤（不明）
免本職東京砲工廠提理に補す
朝鮮駐箚軍參謀長陸軍少將　榊原昇造
免本職廣島灣要塞司令官に補す
朝鮮總督府附武官陸軍中將　石井隼太
免本職野戰砲兵第二旅團長に補す
近衛步兵第三聯隊陸軍步兵大佐　柴勝三郎
任陸軍少將補朝鮮駐箚軍參謀長
步兵第三十一聯隊陸軍步兵中佐　湯地藤太郎
任陸軍步兵大佐朝鮮臨時派遣步兵第一聯隊長に補す
朝鮮臨時派遣步兵第一聯隊長　福原鐵太郎
免本職第十七師團參謀長に補す

▲德川公歡迎會　伊井伯爵、本多子爵、榊原氏等の發起にて來る三日午後三時より芝公園紅葉館に於て德川公爵歸朝歡迎會を兼ね舊幕譜代下の懇親會を開く筈なるが德

[illegible]の模型はバッキンガム宮殿に東京市模型は倫敦市に贈進農商務省の出品は各皇族及大學校其他へ贈呈したりと

▲農具陳列場設置　農商務省は明年度豫算に農具改良事業費三萬圓を計上し西ケ原農事試驗場に陳列場を設置して全國農具を蒐集し比較研究を實施する筈にて最に大浦農相が歐洲より購入せし鍬鋤等も參考品として陳列すべし

▲勸察加無線電信　ニコライウスク在勤鈴木領事の發電によれば勸察加の無線電信は完備し露曆十二月一日より開始すと

▲渾春駐在副領事　副領事大賀龜吉氏は間島總領事館渾春分館在勤を命ぜらる

▲宋秉畯子の着京　宋秉畯子は昨卅日午後三時三十分新橋に着したり

▲趙重應子の出發　滯京中なりし趙重應子は昨日午後三時二十五分新橋出發歸鮮の途に就けり

雜報

▲停止中の重要記事

▲鐵道院の新計畫　鐵道院は關釜連絡船に三千噸の滊船二艘を新造し其他各地連絡をも增加し雇船制を廢止せんと目下調査中なり

▲陸軍大學卒業式　二十九日卒業式を擧ぐ竹田宮殿下も優等の御成績を以て御卒業相成りたり

▲鐵道理事の重任　南滿鐵道理事清野、久保田、犬塚、田中、野々村の五氏は任期滿了となりしが何れも更に就任の命ありたりと

▲金澤博士の渡鮮　文學博士金澤庄三郎氏は學術上取調の爲め朝鮮出張を命ぜられ近々渡鮮の筈なり

▲南極探險隊出發　白瀨中尉以下南極探險隊一行は二十八日午後四時探險船開南丸に乘組み盛なる見送の裡に品川沖解纜遠征の途に就けり

▲會計規則の改正　內部地方局に於ては從前の韓國政府會計規則に準じ地方費其他を取扱ひ來れるも不便勘[illegible]目下石[illegible]省と事務打合中[illegible]務引繼後直に上京の筈

▲無線電信の利用　木浦、小青島、月尾島の無線電信は結果極めて良好なるが珍島沖なる黃門島にも無線電信を架設する筈にて木浦の工事を終りたる光濟號は不日黃門島に向ふべし目下のところ該無線電信は開始早々なるを以て單に海上警備と航路標識の用にのみ供し船舶の往來等を通報するに過ぎざれども來年度よりは一般公衆電報をも取扱ふ事となるべしと

▲個人損害賠償額　日露戰役當時の滿鮮在留日人中戰役の爲めに損害を蒙りたるものに對しそれぞれ個人賠償せらるゝに決し辻熊太郎外八十七名に下賜せらるゝ筈にて最高は一萬圓最低と雖も五十圓を下らずと

▲聯合會の決議案　過般當地に開會せし在朝鮮日本人商業會議所第九次聯合會に於て決議せし議案十八件は目下京城會議所にて整理中なるが近々農商務外務大藏遞信の各省に對する請願書は夫々之を郵送し然る後上京委員を派する筈にて總督府に對する請願書は委員之を携へて出頭する筈なりと

總督府の特別會計

朝鮮總督府特別會計は目下拓殖局に於て查定中なるが大藏省へ廻附さるべきは尙ほ數日を要すべく查定の結果一般會計に繰入れの爲め多少の影響を免れず又鐵道特別會計も後藤總裁歸京の後ならでは確定を見るに至らず查定の結果剩餘金繰入れの爲め多少の異動あるを免れず併して水害復舊補助費の查定濟となりたるもの五六縣あれども之亦た確定までには多少の時日を要すべし而して豫算全部の內示會を開くは多分本月十日頃なるべしと云ふ

寺內總督の歸期

寺內總督は本年中に歸任し新年を當地に於て迎ゆべしとは東電の報ずる處なるが尙ほ聞く處に依れば總督には本月十五日頃東京出發歸任すべく決定せり

朝鮮移住と訓令

併合以來內地人間に一種の朝鮮熱起り殊に東洋拓殖會社の如きは移住民等の奬勵を爲し居れるより何れも朝鮮に移[illegible]迷惑を[illegible]しのみならず渡來者も非常の困苦を嘗むるに至りしは世人の知るところなるが斯くの如きは將來朝鮮開發の爲め甚だ面白からざる現象なるより今回朝鮮總督より內務大臣に宛て之れに關する注意の訓令を各府縣に發せられたる旨申送りの筈なるが一般渡來者の失敗の報內地に傳はるに至れば內地人の朝鮮移住熱一時に冷却し切角朝鮮の一要素として當局の奬勵せんとする方針を碍るに至るを以て此の訓令を發せん計劃なりと

兩少將の赴任期

榊原駐箚軍參謀長及石井總督府付武官は別報の如く何れも更迭されたるが從來滿鮮樺太等に派遣の軍隊は其後任決定着任に非れば赴任するを得ざるを以て兩少將の如きも後任者發表せられたるも着任なき間は赴任期未定なりと云ふ

●聯合豫算競技執行　京城に於ける通信官署聯合珠算競技會執行順序は左の如し
一、明治四十三年十二月三日午後一時より通信局庶務課文書係室に於て開催す
二、競技を分ちて左の三種とす　讀上算、帳簿寄付獨算、查算紙獨算
三、查算紙獨算は百枚の證據書（各六位以下）を各階級に應じ其の正確を得たる限度時分內に算入し答案の正確を得たるものを合格者とし其の合格者中最先位に終りたるものを一等とし以下順次三等迄賞品を授與す
四、帳簿寄付獨算は八位以下のものを五十口を合計するものとす其の方法等前項に依る
五、階級及限度時分左の如し
一級　二分　二級　二分三十秒
三級　三分　四級　三分三十秒
五級　四分
六、讀上算は獨算の一級二級を甲組とし三級四級を乙組とし五級を丙組とし一組每に競技せしめ優勝者三名を得る迄幾回も算入せしめたる上其の優勝者に賞品を授與す但し讀上の爲すべき金額及口數左の如し
甲組　八位以下のもの　三十口
乙組　七位以下のもの　三十口
丙組　六位以下のもの　廿五口
七、競技順序左の如し
第一回　查算紙獨算　五級
第二回　帳簿寄付獨算　五級
第三回　查算紙獨算　四級
第四回　查算紙獨算　四級
第五回　查算紙獨算　三級
第六回　帳簿寄付獨算　三級
第七回　查算紙獨算　二級
第八回　帳簿寄付豫算　二級
第九回　查算紙獨算　一級
第十回　帳簿寄付獨算　一級
第十一回　讀上算　丙組
第十二回　讀上算　乙組
第十三回　讀上算　甲組
第十四回　來賓競技
[illegible]時分[illegible]は次回に於[illegible]場合[illegible]たるときは[illegible]ものとす[illegible]審査を爲し合[illegible]名を掲示す
十、當日競技全部終了後優勝者等に賞品を授與す

●慶南欲知島の發展　慶尙南道欲知島は釜山を去る西南三十五哩にあり其近海は有名なる鯛の漁業地として每年多額の水揚高を示せども同島は釜山を去ること遠く且つ寂寥たる一孤島なるより之れに移住し永續的漁業に從事するもの少きが爲め由來甚だ振はざりしが今回釜山水產會社にて同島に出張所を設けて米穀薪炭を供給するに至り邦人の集まるもの多く昨年以來一箇年六十隻乃至百隻の鯛繩及び打瀨漁船を見るに至り近來漁業上の發展著るしく殆んど同會社漁業の根據地となるに至れるが同會社にては同地を永住的根據地たらしめんとし今回同島臺に新日本村を組織し（敷島村）と命名し從來牧の島に建設しありたる十六間長屋を同島に移轉更に增築を加へつゝある由にして同近海漁獲物運搬の爲め發動機船二隻に更に二十五馬力の發動機船を同島釜山間の間に往復せしむることゝなし釜山には又之れに應じて魚市場に大生池を新設する筈なれば右欲知島新日本村の組織は釜山魚市場に少なからざる影響を來すに至れりと

解停

本紙儀去月廿八日以來發行停止中の處本日附を以て解停と相成り候茲に停止中讀者諸君の眷顧に反きたるの罪を奉謝候
十二月一日
京城新報社

●有望なる鼈の養殖　榮山浦居住の香川縣人白木虎太郎氏は過般榮山江より捕獲せる鼈五貫五百目を試驗の爲め東京に送附したるが東京に於ける鼈の相場は一貫目廿二圓位にして今回移出せるものは運搬の途中負傷し又は砂を食ひ腹部を膨脹せしむる等殆んど健全のもの無き爲め相場も隨つて格外に下り一貫目僅かに八圓前後の價格なりしが東京に於ては其需要殆んど無限なりとのことなるより白木氏等專ら其運搬を研究中なるが又一方榮山江は其地勢風土鼈殖に最も適し居るより地方漁業家等は目下養殖方法に關し考究中なりといへり

●新義州淸商の勢力　支那人の商業取分け小賣商に付いては我邦商の到底企及し能はざるは事例を遠くに覓めずとも明白なるが新義州にても此約束に漏れず今や少數の淸商は邦商を威し一方に於て壓倒せんず勢ひにして彼の野菜物、果實類の如きは全然淸商の手によりて供給され邦商が又一指を染むる餘地なく事態既に如斯なれば彼等の商業は一般安固なる基礎に確立し故に小商人中多少の貯蓄をなせるは新舊市街に於て十指中六七名迄は支那人にして其勢力仲々侮るべからざるものありと云ふ

●龍山蠶業所卒業式　勸業模範場龍山支場蠶業講習生第一回卒業生を三十日午後二時より卒業證書授與式を擧行したり午後二時半職員及卒業證書授與を了して同支場長の式辭勸業模範場長代理の告辭農商工部長官の訓示來賓の祝辭等ありて午後三時終了したり因に卒業生は二十八名なりと

●地方郵便所の設置　來る十六日より左記郵便所設置の旨一日附告示ありたり
▲宜寧郵便所（慶尙南道宜寧郡宜寧邑）▲利原郵便所（咸鏡南道利原郡利原邑）▲高城郵便所（江原道高城郡高城邑）

●郵遞所廢止と承繼　慶尙南道宜寧郵遞所、咸鏡南道利原郵遞所、江原道高城郵遞所は來る十五日限り廢止し同處にて取扱ひたる事務は別項新設の郵便所に於て承繼取扱の旨一日告示ありたり

計劃中の貴族銀行

朝鮮貴族の資金融通を目的とする朝鮮貴族銀行設立の計劃は屢々報道したる處なるが尚ほ聞く處に依れば同行資金を三百萬圓とし昌德宮を始め重なる朝鮮貴族連大株主となり現在の漢城銀行を買收して同行を擴張するに在りと而して同行は現行の貯蓄銀行と商業銀行の中間を得たるものにして一面勤儉貯蓄を勵行し一方事業家の資金融通機關に充るものなりと云ふ

元山の水道問題

京城、釜山、仁川、平壤等の各地方は既に完全なる上水道の設備を見在留民一般に其便利を蒙りつゝあるが獨り元山は古き居留地として邦人の在留者も少なからざるに係らず未だ水道の設備なく加ふるに昨今諸官衙の建築は其唯一の飲用水たりし本願寺別院の水源地を荒したる結果此上水にも幾分涸渇を覺ゆるたるを以て先般商業會議所聯合會に委員として上京したる葭濱、夏目の兩氏は內務部當局者を訪ひ元山に上水道の設備あらんことを請願し目下當局にても詮議中なりといふ

●聯合會の東上委員　過般開催せられたる在朝鮮商業會議所聯合會に於て其決議により主務省へ請願すべき案件に就いては東上委員を派し上せしめて運動すること決定したるが東上委員は京城商業會議所會頭山口太兵衛氏外一名は仁川又は釜山兩會議所の中より一名を選定する筈にて委員は今月中旬出發して帝國議會開會中は滯京する豫定なりといふ

●仁川在住の日人數　十月末調仁川在留民數は一三、一四三人にして內山口縣の一、九四九人尤も多く長崎縣の一、六八五人、福岡縣の一、〇七四人之に次ぎ尤も少きは岩手縣の一二人なり而して六月末調の一二、六三四人に比較せば五〇九人增加す

●福原聯隊長の轉補　朝鮮臨時派遣隊步兵第一聯隊（太田駐在）長福原鐵太郎氏は今般第十六師團參謀長に補せられ其後任として步兵第三十一聯隊附陸軍步兵中佐湯地藤太郎氏大佐に昇進の上就任せり

●松永師團長の出張　第二師團長松永中將は昨一日午後十時四十分龍山發列車にて大邱鎭海灣方面に出張し來る六日頃歸任の豫定なりと

●師團經理部長更任　第二師團經理部長田中三郎氏は豫備役に編入せられ其後任として軍司令部二等主計正白石五佐久氏轉補せられたり

●檜垣道長官の歸任　檜垣京畿道長官は藥師川憲兵隊長等と共に一日朝高陽出發午後三時頃歸任

公人私人
▲大內暢三（代議士）　三十日出發東上
▲伊藤祐敬（檢査院部長）　巴城館滯在
▲鄉津友彌（平壤地方裁判所檢事正）　三十日入京天眞樓に投宿したり
▲五百木良三　滯京中の處一日歸東

▲京城手形交換高
十二月一日　金高　一五九、八六九、三九　枚數　三九〇

相場電報（一日）

（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（二月限）

銘柄		（前場）	（後場）
神戶電鐵	寄	三七、五〇	三七、九〇
同	引	出來不申	三七、八〇
京坂電鐵	寄	五八、四〇	五八、八〇
同	引	五八、七〇	五九、〇〇
鐘淵紡績	寄	一〇二、八〇	出來不申
同	引	一〇三、〇〇	[illegible]
日本郵船	寄	九四、五〇	出來不申
同	引	九四、五〇	[illegible]
東京株新	寄	一二九、四〇	一三〇、〇〇
同	引	一三〇、〇〇	一三一、二〇
大坂株式	寄	一三九、八〇	一三九、五〇
同	引	一三九、九〇	一四〇、五〇
同直取引	寄	一三七、七〇	一三八、五〇
同	引	一三七、八〇	一三八、二〇

▲仁川米豆取引▼
▲前場　一月限寄九圓十錢▲最高十六錢▲最低十錢▲止十五錢▲二月限寄九圓五錢▲最高十七錢▲最低五錢▲止十五錢
▲後場　一月限寄九圓十九錢▲最高三十一錢▲最低十九錢▲止三十錢▲二月限寄九圓二十錢▲最高二十二錢▲最低十八錢▲止二十錢

▲大阪期米▼
▲前場　十二月寄十四圓五十三錢止五十三錢▲一月寄六十六錢止五十九錢▲二月限八十五錢止八十四錢
▲後場　十二月限寄十四圓五十五錢▲一月寄六十九錢▲二月寄九十錢

▲京龍兩驛の貨客▼
▲南大門驛乘降客　三十日の分如左
乘車客　五六九　下車客　六七四
乘車賃金　九八七、四八
▲南大門驛荷物扱高　三十日の分如左
發送　五四噸　到着　三一二噸
發送賃金　七〇五、二三
▲龍山驛乘降客　三十日の分如左
乘車客　一九八　下車客　一七〇
乘車賃金　二四八、三七
▲龍山驛荷物扱高　三十日の分如左
發送　一噸　到着　二六八噸
發送賃金　六二、一三

▲治外法權

寺內總督が近々來られると云ふ、イヤ來られないと云ふドッチにしても記者は構はないと思ふ兒玉將軍でさへ戰地滿洲に居つて臺灣總督を勤めた、寺內子が東京に居て朝鮮總督のヤレぬ理屈がない▲記者の考を有體に云へば今後の總督は無聊を忍びつゝ其偉體を綠泉亭に橫へて居る必要はない、政務總監のあるあり、有司百官のあるあり、總督自身は年に一ぺン最も時候の好い躑躅花の咲く頃ヤッて御座れば良い▲記者思ふに總督之からの仕事は中央に居て第一朝鮮に關する豫算を通し、夫から何かと朝鮮をして中外に重きを爲さしむる事だ▲記者は發行停止の[illegible]で少閑を得、御入來に投じて目下評判の京山小圓を聞いた、小圓は成程名人だ、彼は勤王美談楠多聞丸なる太平記物を良く、御入來化し、而かも下品ならざる樣に聞かせた▲多聞丸と云へば正成の幼名だ、彼れが河內の一鄉士に過ぎぬ身で良く回天の大業を爲したのは全く彼れに禪の修養があつた爲だ、禪の修養とは何ぞ、曰く己れを忘れると云ふ事だ▲禪と云へば此の頃當地の微笑會に出入し圓山太嶺の敎を受けて禪的悟道に入らんと勉めて居る輩が幾らもある、此輩にして修養効を奏し、眞に己れを忘れ得るの境涯に入らんか其幸や只り本人の爲のみならんやである▲井上の大銅像が興津へ出來た、露人の發企でルビンへ伊藤の銅像が出來る、サテ京城では伊藤の銅像をドウするのか▲朝鮮には言論の自由がないから朝鮮專の新聞を馬關へ起ソウと云つてる[illegible]あるが、サテ資本金があるかド[illegible]此頃各役所が役人に給料を[illegible]に大頭は兎に角小役人共は[illegible]て居るソウだ、節季の近[illegible]とかならぬものか。

甘い小料理店主(三)

▽畑君第一次の成功

畑君即ち早稲田大學卒業生の辯説を揮ふて勝ふ水と云ふ奴を向けて見ると既に猛烈に去にたがつて居た美津代●二言と云はず承諾し愈々待合春日に嫌與することゝなりしも生憎美津代は外出の衣裳なかりしより擱れる女の衣類を其の都度借に及んで出掛け居たるなり畑君は茲に於て美津代を通じて土地選定委員の一人なる鶴田を擒にし更らに之れを通じて總組長長谷川精一、副組長岩間房太郎を抱き込み待合春日を集合所とし數回交渉の結果同人等に移轉費として金二千圓を與ふること外に成効謝金として千五百圓を支出することゝしたるに何が扨慾に目のなき連中近來の金儲けと數回協議の結果他の委員を瞞着して出來ぬ相談に時日を空費せしめんと撰定委員會の席上に於て初めから不許可となるは判り切つた中の新地裏の墓地附近に移轉の許可を受けんことを主張したるに元より許されゝば結構な事に相違なきより彼れ等の手段に陷ると知らず直ちに滿場一致を以て之れを可決し同所の土地所有者たる旭町三丁目の井上久藏氏本町五丁目の釘本藤次郎氏其の他二三氏の承諾を得出資者として吉野町の某氏とも相談の結果中の新地附近に許可せられ度き事若し之れにして許可せられざれば中の新地の遊廓指定地たることを取消されたしとの趣旨を以て其筋に願書を提出したが絶對に不許可とこそはなつたり之れ初めより判つて居たことゝて岩間等は密かに舌を吐き夫れでは何處がと纏り兼ねる事のみ申し合ひて日を送る内一方小料理店一所集中地の一と指令せられたる西大門外一帶の有志連は之れが都合よく運ばゝ同地方の繁榮を來すことなれば若し小料理店にして同所に移轉せんとなれば出來得る丈け便宜を與ふべしとて料理店側の内意を探り且つ此れをして可成同所に移轉せしむべき運動委員として地主側より久保田六三郎、額賀晉吉、橋邊豊藏の三氏を選定し交渉を開始したるは恰も中の新地附近へ云々の請願が却下さるべき際なりしにぞ長松吾作(田舎家)は主として其の交渉の圓滿に運ばんことを望み廣津由太郎(二葉亭)鶴田織馬(寶定庵)等を説き地主側の意見も聞き料理屋側の希望も述ぶべく地主側にて選定したる會合場たる西大館に會合し諸種の協議に取り掛りたるは九月中旬なりし然るに深き魂膽ある鶴田、廣津等は頭から圓滿に協議する考へはなかりしことなれば何時も何時も瓢簞鯰のヌラリクラリと埒もなき事を云ふのみか地主側の委員額賀、久保田等の立腹すべき様の言語をのみ弄し居たり扨も畑君は一方斯く自家藥籠中の委員連を操りつゝ更らに他方某民團議員其の他の某々をして一面よりも或る種の運動を怠らざりしは云ふ迄もなし(つゞく)

●八千代の駈落 未遂

西小門通りの小料理店永見亭の八千代と云へば八々と來たら三日でも食ずにやると云ふ位すきで隨て博徒を情夫にして逢て引きもやる百餘の借金も其の爲め出來た其の上三面子の厄介にもなる事屢々だと云ふナカ〳〵の莫連女なるが此の頃旭町の某印刷所職工富田某を情夫とし逢引くことの度重なれば借金も增加せし由なるが去月二十九日午前五時頃起床し稻荷さんに參詣すと稱し家出せしまゝ歸宅せざるより逃げはせぬかと心配なし居りたり然るに一方八千代は丸髷姿にて龍山驛構内を好いた男と二人彷徨し居りたるを八千代が樓主の金錢貸借の保證人なる龍山元町洋服商多田某之を認め不思議に思ひ驅け落にあらざるやと怪しみ保證人の責任とて早速自動電話を以て隣家の某醫院の電話の取次を得て照會したるに逃走せし事判明是れ逃がさじと取押へ永見樓主に引渡したるが八千代は不都合にも藝妓の三子に虐待さるから逃げまして杯濡衣を着せ居れりとは不都合なりかし

●恐喝取財犯檢擧

元朝鮮新聞京城支局編輯員渡邊勤二は在社當時九月十四日より十五日の二日間家庭の紊亂と題し本町五丁目菓子商岸川某が妻の妹なる某と密通し妻君は下宿人某官吏と密通し妹某は更らに某職人と密通云々と三面記事に掲げ去月十九日岸川方に行き前日に掲げたると同一の投書ありたるを以て自分一人なれば格別他に一人の記者も知り居るから幾何か包金せよとて結局三十圓の出金を迫り暫く二十日二十一日の兩度に騙取したる事第二憲兵分隊特務の探知する所となり一昨日引致取調の上檢事局に送られしが一日菱谷檢事の手にて豫審に附せらる

●婦女誘拐者處分

高知縣香美郡吉川村大字吉原二百二番地當時黃海道黃州城外居住周旋業澤田茂(三三)は在鄕當時より[illegible]業に遠かり居り本年三月渡鮮現住所にて口入業を營み日本内地より無智の女子を渡來せしめ飲食店又は料理店に酌婦に住込せ暴利を得る惡漢なるが近く同縣人濱田とらよを誘拐したる事判明し京城地方裁判所に於て懲役二箇年に處せらる

●飼犬に手を咬る

岡山縣勝田郡廣島村福井千八十二番地當時所不定小原常夫(二六)は京城若草町角田吉五郎方寄食中十月二十九日頃家人の不在に乘じ衣類數點を窃取し尙ほ同人より借用し居りたる羽織及インバチスを橫領入質外一箇所に於て同一手段にて窃盜及橫領したる事件は昨一日京城地方裁判所に於て懲役三箇月に處せらる

大能樂會の番組

▽旭町萬千閣上に於ける

既報の如く東京大阪國諷會主催にかゝる大能樂團一行二十餘名は四日五日の兩日万千閣に於て演能の都合なるが豫て内談ありたる李王殿下の上覽は三日と決定したる赴なるも其の時の都合に依りて或は見合せとなるやも測り知られざれば万一不幸にも然る事あらば五日分の番組を三日に繰り上げ開催すべしと猶ほ開演時刻は四日は午前九時より五日(或は三日)は午後四時よりにて會費は一人金二圓均一也と番組如左

▲四日 三輪(辻並貞、谷田民之助、谷口喜三郎、曾和皷堂、前川光隆、杉次郎助)弱法師(辻年翁、中村猪八郎、谷口喜三郎、曾和皷堂、武田市太郎)松風見留(大江又三郎、田中幸吉、谷口喜三郎、曾和皷堂、杉次郎助)鉢木(大江又三郎、中村猪八郎、谷口喜三郎、曾和皷堂、武田市太郎)船辨慶(矢作久之助、田中幸吉、谷口喜三郎、曾和皷堂、前川光隆、杉次郎助)狂言(佐渡狐(尾崎伊三郎)伯母ヶ酒(茂山千五郎)惡太郎 茂山千五郎)不聞座頭(中垣利幸)

▲五日(或は三日) 小袖曾我(溝川松之助、谷口喜三郎、曾和皷堂、武田市太郎)望月(大江又三郎、中村猪八郎、谷口喜三郎、曾和皷堂、前川光隆、杉次郎助)粂上梓之出(大江又三郎、田中幸吉、谷口喜三郎、曾和皷堂、前川光隆、武田市太郎)狂言、宗藥煉(尾崎伊三郎)二九十八(茂山千五郎)

花柳のうはさ

南大門通り大商店の主人公某、開進亭の老妓米八と懇ろてより雨外套の[illegible]も漏らさぬ深い中なるが根が水性の某却々一人では承知が出來ず或る夜ひそかに南山町は松葉亭の八重松の綠の枝に情けの月の光りを投げ掛け船來羅紗[illegible]れ安くない關係をつけたる以來兩手に花の二つ丁字、他愛もなく嬉しがつてムるが此の八重松には二世と契りしサーベル殿がある事と御存じのないのも又一興に御座候▲過日井門本店より現はれたる叶子(十四)と申すは眼元涼しく口許に愛嬌のある所が殊に可愛らしいとて此所一、二年の後ちを待ち遠がつて居る方が二三名は御座候由に候▲近眼鏡の木島さんや龍山からはる〳〵と自轉車で通ふて來て下さる千田さんやの御親切嬉しいには相違なきも東京赤坂邊に御座ろうの字さんの事は何うしても忘れる事が出來ないんですョと云ふは同店の玉蝶が惚氣話に候▲同店の米吉此の頃好きな人が澤山出來て由なに、はアちやん、のうちやん、いちやん等數へ來たれば御自分の顏にあるホクロの數よりも澤山あるとにて「云つては厭アよ」との條件附きにて玉蝶から秘密で聞いた話に御座候然れば當分秘密に願上候▲松葉亭の力彌姐さんは本町一丁目の旦那殿と二十六日の夜壽座見物と洒落た處親類筋の明治町を出つ會し逃る譯にも行かずモヂ〳〵ムヅ〳〵の一幕は面白かつたと見た人〳〵の評判にて候▲過日開催の絃吟會に顏を出したきく家の笑太郎は京城花柳界一の美人だと岡惚れして騒いでる方も御座候岡惚れも少々極端の如に思はれ候へども夫は別問題として美くしい可愛らしいと云ふ點には影法師もツーンと贊成に御座候▲同じくきく家の茂松と柔しい名のターチャンが一の客とか京城日報社にて專らの評判に御座候(影法師)

和歌募集

勅題「寒月照梅花」 選者 九皐館去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月廿五日、發表は四十四年一月元旦の本紙上を以てす、同好の士奮つて投詠せられんことを希ふ

十二月二日 本社編輯局

●中檢藝妓の腕比

例に依りて同券藝妓衆の頗る凄い腕比べなるものゝ二十番迄を紹介な仕ると やん茶(掬)駒江(松)蝶々(井)れ多福(清)政子(井)秀子(掬)小たか(花)繁春(掬)れちやら(花)小達磨(同)今奴(清)お染(掬)江戸奴(同)〆八(花)▲君江(同)金五郎(同)丸子(清)艶子(花)米吉(井)たみ(花)

妾の記事に就て一言す

二葉亭内 上西園子

過ぎし日の數日に亘る貴紙三面欄に於ける妾に關する記事はそも何人の怨恨による中傷の説なるか、實に形跡もなく根もなき捏造の説を麗々しく掲げてあたら可憐なる寄邊なき薄命の女性を世に潛む惡鬼に擬そらへてあらゆる譏謗を極めて誹議せられしはげに妾の最も不審に堪へぬ處にして妾も不省ながら母國に於て年久しく敎の庭の學びの草をつみそへて敷島の道にいそしみつゝ世に處するに聊か婦德の何たるかを解せしもあはれ、不幸にして一度浮世の荒波に誘はれ、げに心にもなき憂愁悲慘なる境遇に逢着して虎狼の如き惡鬼に呪はれつ身体此處に谷りて通るゝすべもなく哀れ何時しか仇なる罪惡の血に塗れて、雨の夜半風の晨、果なき人生の悲慘の極に、咽びて只管ら天の下せる運命の薄きを喞ちつゝ哀志忡々時には寧ろ一閃の刄につきぬ、恨を呑で潔ぎよく自決し幽愁の境を脱してなつかしき故國の空にのがれゆかんとも思ひしは、げに幾度なりしよ、去るにても世は獨り惡魔の跳梁のみにわらで血ある涙ある人の情にうるはひて、妾は此處に自由の境に逃れ出でゝ今は過にし夢の形跡もなく心身いとゞ健にして心の操寒竹の綠に露變らす嚢には、なき人の筆頭に呪れて、やる瀬なき思に堪へざりしあたら韓野の仇花散りゆく木枯と共に胡砂吹く風に消ぬ失せて、落花流水捿しへに亦歸らず、過去半歲に亘りし、妾の悲慘なる歷史はこゝに終りを告げて幸ある前途を神に祈る、さあれ今茲に妾が心の裡に宿せるつきぬ恨の思を止めし筆一呵、希くば妾の哀情を諒して幸薄なる女性の爲めに一片の同情を賜り貴重なる紙面の一欄を割愛せられん事、切に是れ祈る かしく

「霜月の末つかた晩鐘の音をきゝつゝ」

記者曰く 世や人や運命やをのみ恨む此の妓此手で今日迄深い罪を作つたのなり、此の不眞面目が惡いのだ、此の生意氣な了見が惡いのだ、自己の非を悟り且つ改めよ

▲平民文學▼

▲今日も仁川のれ噂に始まる▲顱頂を燈明臺の如に光らして居る役所の課長和田と云つたら仁川の名物男、仁川に三年も住んだ程の内地人で知らぬものは無いとのこと此の先生近來山の手の自宅に時々部下を集め藝妓を聘んで大盡遊びをする▲ツイ過日の事部下役人連の妻君達ヶ集め態々京城から呼び下したる藝妓連にドンチャン行らして自分は傲然れ山の大將を極めて居た夫れが午前二時頃まで▲スルト今度は餘興だとやら云ふので奥さん達の藝づくし三味線やら琴やらなか〳〵振つたものである▲併し夫れが振ふ丈け近所のものは迷惑する相である(風聞子)▲京城の産婆に横山小糸と云ふ人がある此の人は自分の氣に入らぬ他の事につき毒舌を揮ふ夫れが爲め思はぬ汚名を蒙つたものが尠くない(かちがらす)▲南山の麓 風光絶佳の地辻屋花園に貸家あり水道の設備あり(本町二辻屋)▲夜間簿記學御教授に與りたし御教へ下さる方は本欄にてた知らせ(商家手代)▲市内南山町一丁目上村生と署名したる投書は沒とす(係)仁川建築所の技手山田喜作が收賄の件で拘引せられたとの事を貴紙に掲げてあるが税〇の會計にも能く似て居るのがあり升(無名氏)▲御社主催の歌留多會を同日催さゝるや無論た正月には大會開催せらるゝならんも年内に二三回開催することにれ願申度御回答は紙上に願升(赤坊)▲成る可く御希望に副ふ如致します(係)▲帽子洋服の色揚は南山町幼稚園上の北山と云ふのが巧手で安い(一商人)▲廿六日の平民文庫に土百姓と題して南大門通り羅紗屋云々の投書をした奴よ少し戒め然らざれば打ん撲るぞ(京城洋服店主人代理)▲僕は擊劍柔道に趣味を持つて居るものだが當京城には此の道場が少ない一つ研究所を設けて共に樂みたいが有志の士で寄附して下さる人はありませんか(懸願士)▲去る廿五日午後九時頃本町六丁目菓子屋に二郷人の客此の方の生所御存じの方は本欄にて御通知を乞ふ(見覺生)▲其の時直接れ聞きになれば手數が[illegible]らぬのに(小僧)▲通信局の平良末次郎に關する投書具体的ならぬを以て沒とす(係)▲牧野旅館云々の投書も沒(係)▲絃吟會飛入「晴れてそはれぬ二人の中を思ひ知れとや今日の雨」「さむい思ひに餅令をみれば北漢調査たア情けない」(失名氏)

諸公債諸株券 現物賣買
迅速確實に御取扱可申候
兼業 既製洋服御小賣 諸官衙御用達
京城本町三丁目
大坂野村德七代理店
田中友吉商店
電話九三九

移轉廣告
今般仁川米豆取引所前新築家屋へ移轉仕り從來の業務を一層機敏確實に取扱申上候間御用命希上候
仁川港海岸通り(取引所前)
定期米賣買
廣澤仲買店
電話百七十番

恩給年金 長期立替
確實取引月一歩五厘
京城中部壽進坊相思洞廿九統七戸下留業博多屋方
上州屋出張所

質
本町一丁目裏通り支那領事館筋
南商店
電話一〇九六番

事務所 京城鐘路通一丁目八番戸の一(光化門郵便局横町)(電話四九一番)
辯護士 大崎熊之丞
事務所 仁川山手町二丁目(電話七〇八番)
出張事務所 忠淸北道淸州南門内 咸鏡北道淸津壽町三丁目

丸山醫院開業
診療時間 自午前八時至午後九時
急病患者は何時にても診療す
京城南大門外吉野町一丁目五番戸
院長醫學得業士 丸山白
●諸看婦見習生募集

●生徒募集
●刺繡專科生十五名(卒業期一箇年)
●造花專科生十五名(卒業期一箇年)
●みしん專科生十五名(卒業期六箇月)
●本科及技藝專修科補缺若干名
右募集す希望の方は來校せらるべし
京城旭町一丁目
京城女子技藝學校
●各學期補缺生若干名募集す
京城夜學校

內科 外科 小兒科 梅毒淋病
入院隨意
京城若草町三丁目
高井醫院
電話(二七六)
院長 陸軍軍醫正 高井貞治

神易方位
●神は易に誠を傳へ賜ふ●方位は緣組、轉宅、旅行、新築等の吉方
京城南米倉町三十四番戸和樂園の下
一心堂

開業廣告
一金錢貸借、土地建物鑛山株券の賣買
其他一般の仲介
右營業を開始致候間何卒御用命相成度此段相願候
京城新町三丁目二十四番戸
岡田幾三郎

文房具 和洋紙 測量器機
シノサキ本店
京城本町一丁目郵便局前
並賣次營申業候
電話六四八番 振替朝鮮一五四番

義齒術全般
京城旭町一丁目
齋藤英壽
電話一四一四番

●眼鏡●特別安價發賣
(第壹號平打細縁釣掛)
(第二號半掛形)
(第三號差込婦人用)
(第四號細釣掛形)
◉金縁縄釣掛(但し何れも優美なるサーク付)
特十八金製(一匁八分付)十一圓八十錢
甲十四金製(一匁五分付)八圓五十錢
(平打最新流行式第一、第二、第三號圖の內何れにても御好次第)
◉金縁細蔓掛(第四號圖普通蔓掛)
甲十八金製(一匁三分付)金九圓五十錢
乙十四金製(一匁二分付)金七圓五十錢
●金張米國製特四圓五十錢●甲三圓八十錢●乙二圓八十錢
●本銀縁 一號、二號、三號圖の內何れにても御好次第 特一圓六十錢●甲一圓三十錢●四號形一圓
●赤銅金縁 一號、二號、三號圖の內何れにても御好次第 特四圓五十錢甲三圓五十錢乙三圓四號形三圓五十錢
●上等赤銅縁 特二圓五十錢●甲二圓●乙一圓五十錢
●赤銅銀縁 一號形特二圓五十錢●甲二圓●乙一圓五十錢
送料眼鏡一個に付金廿五錢代金引換の時は廿錢增の事 但御注文之際は何號圖形金縁、銀、赤銅、玉は近視老眼何度又は素度灰色無色等の區別御申越相成度候
眼鏡美術品製造發賣元
大阪市東區心齋橋通り瓦町北へ入る
明石屋本店
店主 上村重兵衛
(電話東三千四十九番)(振替大阪六二六一番)

營業品目
水道用具類
消防用具類
消火器類
電信電話
電鈴用具
雷針
避雷器各種
電池
電燈器具
●新設及修繕工事一式
●叮嚀確實を旨と致候
右の所に於て開業仕候間多少に不拘御用命奉願候
京城明治町九十八番戸
竹下商店
取次電話(一七一番)

齒補
京城水票橋通り二丁目
應需出向仕り候
井改作
齒補堂

石炭各種
平壤無煙炭
平壤無煙煉炭
京城西小門通
西崎商店
電話七二七番

御待合 紅葉
南大門通三丁目光宣門側
電話一三八二番

佐賀セメント
今回販賣致し候に付多少に不拘御用命被仰付度奉願候
佐賀セメント株式會社
京城代理店
南山町二丁目
山村商店
電話三四四番

商標
諸公債株式現物問屋
釘本藤次郎本店
長電話四五番
京城本町五丁目

蒸溜消毒 牛乳
京城青葉町五十番戸の一
廣養舍
細川牧場
(電話一三六六番)

納入日課
陸軍衛戍病院
總督府醫院
漢城病院
總督閣下
御檢查濟 御用

滋養 高等牛乳 強壯
京城南大門外
韓國畜產會社
電話八八番

入院隨意
家畜病院
專任獸醫 宗本寅一
境內高燥淸淨なる衛生地域をトし完全なる病畜舍及治療室を新設し汎く大小動物家畜の診察に從事す

和洋御料理
會席 御一人前代六十錢 御肴六品御酒二本付
洋食 御一人前代六十錢
すき燒 御一人前代二十錢 六皿ビール一本付
高等御しるこ
東京天ぷら
仕出し仕候
たちばな
京城南大門通三丁目東裏

サイジョーヨシーョーユーキッコーリウ

景品附 龍 大賣出

日韓併合紀念大改良御披露
當社醸造の亀甲龍印醬油の儀御愛用諸君の特別なる御引立により日に月に益々盛運に向ひ候段御厚禮申上候扨今般日韓の併合を期とし品質に大改良を加へ關東產最上醬油と同等以上のものと相成候に就ては聊御披露の爲め來る十一月十六日より六千樽を限り左記の通り景品附賣出し行致し候間賣切れに相成ざる中至急御買上げ被下度御願申上候 敬具

景品目錄
壹等 繻珍丸帶	壹本	籤數壹本
貳等 縮緬石持	壹反	同貳本
參等 御召縮緬	壹反	同五本
四等 新御召 又は伊勢紬小紋銘仙	壹反	同拾本
五等 上等二子織	壹反	同參拾本
六等 更紗木綿 若しくは夜具縞	壹反	同百五十本
七等 硝子製新案醬油注	壹個	同參百個
八等 手ふき	壹筋	同五千五百二本

◎景品券は小樽一樽に付一枚宛大樽一樽に付四枚宛差上可申候
◎六千樽賣切次第新聞紙上に廣告可仕候
◎抽籤は明治四十四年一月十日とし七等までの當選番號は新聞紙上に發表可仕候
◎六等までの景品は(京城)三越山口山枝(仁川)末永近江屋(龍山)土永の各呉服店に陳列致置候間御散歩の折御一覽被下度候

特約發賣元
京城南大門通り三丁目 遠藤商店(電九八二)
同本町六丁目 藤富國商店(電三〇八)
同本町六丁目 田中支店(電七六四)
龍山元町一丁目 上野商店(電三〇)
仁川本町四丁目 河野本店(電二八)
同宮町一丁目 吉川商店(電一四〇)
同本町四丁目 中野常商店(電一一〇)
同新町二丁目 奥田醬油部(電三〇五)
●右の外京仁龍至る處の酒醬油店にて販賣仕り候

日本醬油株式會社

諸君是からは
雪見の宴に ストーブ横に執務の時は 常備藥として
商標
清快丸(せいかいがん)に限ります
何時も愉快に面白く御酒を飲ませ
何時も精神爽に愉快に執務の出來るのは
(到る處の藥店にて販賣す)
本舖 日本大阪 高橋盛大堂藥局
朝鮮總擴張部 京城本町五丁目 木下大盛堂藥局
代理店 京城南大門通 新井藥房

▲御進物品最好適品
珍柄大賣出し
●御半衿類各種
●御羽織紐
仁川宮町一丁目(角ノ屋) 竹原旅館方
京城京屋德 出張販賣部
其他いろいろ
各位愈々御隆盛奉賀上候 扨今般御華客樣方の御誘により同地へ出張仕り特別大廉價を以て大賣出し仕候間何卒賑々敷御來車の程伏而願上候

三製紙會社製造板紙特約店
洋紙各種
紙函封筒 諸袋類製造販賣
京城長谷川町二丁目
鼎商
電話九百十八番